

目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	神学研究科
大項目	0 理念・目的 (研究科)
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員 (教職員および学生) に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告 (2013.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 4つの研究分野 (聖書分野、歴史・文化分野、組織・思想分野、実践分野) とその内容について、研究科の内外に周知を図ると共に、神学研究科の理念・目的との関連について定期的な検証を行う。	→履修モデルの作成と公開 (WEB等の広報媒体への掲載、履修指導への反映 [心得に掲載])	C	C	B	A	/
2. 上記研究分野を基礎とした履修コース (キリスト教神学・伝道者コースおよびキリスト教思想・文化コース) それぞれの意義付けを、カリキュラム編成に生かす。(博士課程前期課程)	→コース名称の変更とカリキュラムの改訂	B	B	B	B	/

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	前期課程においては、履修コース別かつ研究分野別に「履修モデル」を作成 (2011年度)、WEBサイトおよび研究科『履修の手引』にて公開しており (2012年度)、「学位取得までのプロセス」とともに履修指導に反映させ活用するに至っている。後期課程においては、学会発表および論文執筆をより重視し、「学位取得までのプロセス」をモデルとして指導に活用している。これらのことから目標はほぼ達成されたものと考えている。
目標2	目立った進捗はないが、前期課程「キリスト教神学・伝道者コース」の名称変更は、学部 (すでに名称変更済み) との接続を考慮し、学部において該当するコースの卒業生が輩出されるのを待って対応の予定である。また2つの履修コースの意義を明確にしたカリキュラムについて、2013年度から、研究科副委員長 (教務担当教員) を中心にカリキュラム研究委員会 (研究科) において本格的な検討を始めている。
備考	